

解答

①

問1 ① イ ② エ ③ イ

問2 I キ II ウ III ア 問3 エ 問4 ウ

問5 ア 問6 エ 問7 イ 問8 ウ 問9 イ

②

問1 a ア b エ 問2 イ 問3 ア・オ・カ

問4 I ア II ク III カ IV エ 問5 ウ

問6 ウ 問7 失〔望〕 問8 イ

問9 やさしさ 問10 エ

解説

① 出典は、橋本淳司「67億人の水」。

問2 Iは「食べ物を捨てるのはたかさんの水を捨てるのと同じ」という説明に、「食べ残しが川などに捨てられれば水がよごれ、元にもどすために大量の水が必要」という説明が追加されるのですから、添加・累加の接続語「さらに」。IIはその前の段落で地球温暖化がもたらす未来について語られ、IIの後はチベット高原の永久凍土の溶解という具体例が説明されます。チベットの出来事はもう始まっているのですから、副詞「すでに」。IIIは「化石燃料を使って食料や水を作ると、～「水不足」「水汚染」「地下水枯渇」につながります」と述べられたうえで、「一時は水や食料を確保できても、長期的に見ると水や食料の枯渇につながってしまう」と、まとめの文がつづくのですから、詳説・換言の接続語「つまり」を選ばなくてはなりません。

問3 ——線(1)に「これらの国」から「食料を輸入することは難しくなるでしょう」と書いてあることに注目しましょう。「これらの国」とは「輸入相手国である、中国、アメリカ、オーストラリア」であり、「水不足」という問題を抱えていることが同じ文中から見つけることができます。従ってア～エでは、輸入相手国の水不足について言及しているエが正解になります。イも同様に輸入相手国の水不足について指摘していますが「輸入せざるをえない」と、筆者が書いていないことが付け加わっているので、正解にふさわしくありません。

問4 ——線(2)については、その直前で「食べ物をすてることは水を捨てること」、「食べ残しが水を汚し、元に戻すにも大量の水が必要」と書かれていることを重視しましょう。この二つの説明にあてはまるのは、ウになります。アとエでは「食料の量にゆとりができる」、「エネルギーの消費量を減らす」と、それぞれ余計な説明が文の中心になっていますし、イには「不必要や食料の生産を減らす」と、作者が述べていないことまで先取りして書かれています。

問5 ——線(3)で筆者はまず「現代農業は転換期に立たされた」と宣言し、つづいてその理由として石油の供給量のピークが食糧生産量のピークであり、フードマイレージをひとつの目安にすべきだと語ります。筆者はフードマイレージを中心に議論を進めているのですから、ア～エのうちもっとも適切なものは、まさにこの語句についてはっきりと言及しているアになります。エでもこのことを語っているように読み取れますが、「消費量を予測して」の意味が何の消費量なのか曖昧で、説明としては不十分です。

問6 この段落で話題になっているのは、マルタ島の水没問題です。なぜマルタ島は水没しつつあるのか？ 言うまでもなく地球温暖化によってです。そしてマルタ島は解決策として地球温暖化の原因たる化石燃料を使用せざるをえなく、結果的に悪循環に陥ってしまいます。ア～エのうち、この悪循環について語っているのはただひとつ、エです。

問7 ——線(4)直後の筆者の説明に注目しましょう。筆者は「水関連の事業ではたかさんのエネルギーを使います」と述べ、それがどれぐらいの電力なのか説明します。したがってア～エのうち、ア「化石燃料に依存」が真っ先に外れ、エも「海水淡水化」の部分が筆者が説明していないので正解になりません。一方、ウの場合は、「原発の電気を使うことが問題」と書かれている以上、筆者が提示している論点とは異なります。したがってイが正解になります。

問8 ——線(5)の直前、「水とエネルギーという視点を持つ」に注目しましょう。筆者はその数段落前から、「水とエネルギーについても考えてみましょう」と説明を開始し、「水道はエネルギー消費産業という側面も持っています」とまとめます。したがってア～エでは、この部分にもっとも該当するものを選ばなくてはなりません。イとエは「化石燃料」について語っているだけですから見当違いになります。アでは「水道事業」と「エネルギー」の関係について記載していますが、「化石燃料の不足がいつそう深刻になる」という結論が、筆者の意見を限定しすぎています。原発の例が書かれているように、筆者は水確保に必要なエネルギー全体について示しているのであり、当然のことながら、これに該当するのはウです。

問9 この問題が問いかけるのは、説明文の要旨としてどれがもっともふさわしいかです。筆者は水問題について論旨を進めていきながら、具体的な解決策のひとつとして「フードマイレージ」を最小に抑えることを強調します。ア～

エのうち、正解を選択するために基準とすべきがこの「フードマイレージの最小化」についての言及の有無です。したがってまずアが脱落します。またエについては「ハイテク化した農業技術を積極的に取り入れる」という点が筆者の意見と食い違いますが、イが「エネルギー消費量が少なく」と書かれ、ウが「化石燃料に頼らない」と書かれていることに注目しましょう。筆者は「化石燃料の消費量は少ない方がよい」と書いているのですから、ウ「頼らない」では意味が少し異なってしまいます。正解はこのことからイになります。

② 出典は、増野純高「おとうさん」。

問2 ——線(1)の直後の「ウソらしいとは思いますが」という文や、貴之君の言葉遣いが日一日と粗野になっていくという説明に注目しましょう。おとうさんは貴之君がウソをついていることを薄々気がついていますが、貴之君がまじめな性格でなくなりつつあることも感じているのです。この二つをあわせて考えれば、正解はイになりますよね。

問3 おとうさんがさびしい気持ちになったのは、新しいお弁当箱が気に入らないからです。まずこのことから、古いお弁当箱を惜しむ気持ちということでアが選ばれます。そして、おとうさんが古いお弁当箱に愛着があったのは、このお弁当箱のおかげで、シャケの切身を楽しみながら食べることができたからです。したがって残る正解はオとカで、いずれもシャケの切身について書かれています。

問4 Iは「おとうさんはおどろきの目で」とあるのですから、おどろきを表現する「息をのみました」のア。IIは「あわててフタをしました」つまりお弁当箱を隠したのですから「はずかしかった」のク。IIIは直前の『やっぱりだ』が二重かぎ括弧で書かれていますから、「心の中で」の力。そしてIVは「いまはない、おふくろさん」が作ってくれたお弁当のことを思い出し、感動したのですから「目がしらが熱く」のエ。

問5 ——線(3)の前にある「あったかい気持ちで過ごす事が出来ました」に注目しましょう。おとうさんは、死んだ母親が作ってくれたお弁当を思い出すことで、あらためて家族への愛おしさを感じたのです。メロンを買ったのも同じ気持ちからです。したがって「家族全員への愛情表現」ということで、ウを選ばなくてはなりません。

問6 おとうさんがメロンを買ってきたのは、家族へのいとおしさ、家族を大事に思う気持ちの表れであるのは明らかです。では、そんなおとうさんが、まさに家に入ろうとして貴之君のひどい言葉を耳にしたとき、どう受け止めることになるでしょうか？ 大切な家族を傷つけようとしていると感じずにいられないはずですが、また、——線(4)に「今日こそ」とあるように、おとうさんは貴之君のこれまでの言動をよくないことだと考えてきました。それで今日こそなんとかしなければ、家族が危ないと思ったのです。これらのことから、家族を大切に思う気持ちと、守ろうとする気持ちの二つが書かれているウが正解となります。

問7 おとうさんは、やさしい子だと思っていた貴之君がおかあさんをいじめていることで、今度こそがっかりしてしまいます。——線(5)の「力なく」とは落胆して肩を落としている描写です。したがって「がっかりした」という意味にあたる「失望」を答えましょう。

問8 貴之君はおとうさんが自分より質素なお弁当を食べていることを知り、自分がどんなふうに関心されてきたか気づきます。アは「あわれに思い」としか書かれていないことで、本文中の「それでいて、とてもやわらかい表情」と書かれている部分と大きく意味が食い違ってしまいます。ウは無論、「反抗的な態度」がお弁当のこととまるっきり無関係です。エでは妹のことが書かれていない以上、「家族がみな」の部分はやや正確を期しません。したがってお弁当のこと、それをきっかけに考えを改めたというイが正解になります。

問9 直前の「言葉は相変わらず荒々しいのですが、やさしさが含まれている」に注目しましょう。貴之君は立ち直りましたが、その根本となる原動力は、彼の中にある良い心——「やさしさ」なのです。

問10 ——線(7)は情景描写、つまり登場人物たちの気持ちが反映している景色の描写です。シャケ弁事件の結果、貴之君は立ち直りましたし、「暖かい春の日差し」が教えてくれるように、家族は今日も明るい気持ちで暮らしています。ア～エのうち、この情景描写としての「日差し」にもっとも素直に対応しているのが「なごやかに」のエになります。